

# 会員のば

## 新年の野望

十勝医師会  
大樹町立国民健康保険病院

岩渕 敏樹

「野望」というのは、無理してでもかなえたい欲望。かつ、自分の力に不相応な過大な望みのこと。

### 第1の野望・オムレツ

毎日欠かせない食材だけに、美味しい卵への思い入れはことのほか強い。最近のマイブームは、シェイ・ホテルの朝食。シェフが、オムレツを目の前で手作りしてくれる。行儀よく並んで、プレーンオムレツをリクエストして、眼光鋭く彼の手元を覗きつける。バターと卵だけで、さも無造作に作られるオムレツは、芸術の完成過程を目撃するのに似る。味わうところまで、その一部始終を堪能するのは、光栄かつ得難い経験。

何ダースかの卵を惜しみなく使って、オムレツ作りの練習ができたなら幸せだろうと常々思う。でも食べものを無駄にできない性分が邪魔をしてしまう。できてしまうたくさんの中途半端な完成品を、どうするかという課題があるからだ。オムレツは冷凍できるのかしらん？

地元の美味しい卵で作れば、自作のオムレツもなかなか。お焦げもご愛敬。午後半日仕事を休んで、オムレツの練習をしたい。

### 第2の野望・月や星

このところすっかり身に付いてしまった早寝早起きの習慣が災いして、月と星にとんとご無沙汰。夜半に極を迎える何とか流星群、寝待ちの月などは、かなりハードルが高い。

睡眠時間への不安、明日の外来予約数に心乱されず、夜の寒さに歯の根も合わせて、北海道に暮らし地球に生きた記念に、悔いの無いほど堪能したい素晴らしい夜空。

一年…いや一生に、一晩だけでも…。

### 第3の野望・お金

年末のせいか、お金によく触っている。代引きに

するしかなかった荷物。酒屋の支払い。はがきや切手を買ったり…心なしか気持ちが悪さぶ。

子どもの頃、母親に「お金を触ったらすぐに手を洗いなさい」としつこくしつけられていた名残か。潔癖な母は、お金は不浄のもの、話題にするのも嫌という人だった。それで「お金はダイジダヨー」というコマーシャルを聞くたびに嫌な気持ちになる。アヒルに言われたくない。

閑話。経済という言葉は経世済民の略語と思えば、今の経済は民を救っているのだろうか？ 日本の経済を家計に例えれば、20万の給料なのに、おねえちゃんに40万のロマネ・コンティをねだられて、毎月一本プレゼントしちゃうのがもうやめられないと言っているのと同じで、とても正気の沙汰とは思えない。相手がおねえちゃんなら、いつかやめても良いかもしれないが…この予算配分、もはや国民全員が当たり前と思っているところが病膏肓である。こんなことがいつまでも続くわけがない。日本が破産したらお金の価値なんて無くなる。

でもそうなれば、庭で採れるトマトとかにんじんの価値が急上昇するはずだ。裏のおばあちゃんの大きな畑は、さながらゴールドラッシュになるだろう。畑仕事の重労働が報われる日は遠くない。だから庭仕事好きの皆さん、もうちょっと頑張って！と外来で語ってみる。

やっぱり、お金などになるべく関わらない方がよい。

かといって、残念ながら、今はまだ給与所得者で子育て中の身、無視できない。お金を認めつつも、関わらずに生きる。

### 第4の野望・書

真白い紙と墨の黒にはいつも魅せられる。いつか思う存分にしたいためみたい。般若心経を自由な書体で写してみたい。いろいろな違う墨を試したい。毛先の違う筆の味を知りたい。

と思いつつ、12月になるのにまだ書き初めをしていない。このことは、3日に一度ふと思い出す。慚愧に堪えない。ならすぐに書けばいいのに…。この病理はいかがなものか？

書を神聖視するあまり、容易に机に向かえないのか？ いや、ただ面倒なだけだろう。

新年は、このうち1つはかなえたいという「野心」を今大切に育てているところ。